

テーマ【 日本原産タンポポの分布調査 】

《学習のねらい》

- ・身近な自然への関心を高めるとともに、簡単な野外観察や結果の考察を通して、生物の世界へアプローチするための知識や観察の技能を身につけさせる。
- ・タンポポの植生調査を経年比較することによって、外来種が生態系に及ぼす影響等を考察するきっかけとする。

《学習の流れ》

	学習活動の主な内容	指導のポイント
1	<p>○「セイヨウタンポポ」と「カンサイタンポポ」の見分け方等について話を聞く。</p> 	<p>■日本におけるタンポポの植生分布は、外来種である「セイヨウタンポポ」が主流になっており、日本原産である「カンサイタンポポ」「カントウタンポポ」はめずらしい存在になっている。四條畷中学校敷地内ではカンサイタンポポの群生地があるため、タンポポの植生調査を兼ねた野外観察を実施することで、生徒が興味・関心を持って取り組むことができる。</p>
2	<p>○導入（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り ・一人一枚ワークシートを配布 ・本時の流れの確認 ・ワークシートの記入方法説明 <p>○班活動（35分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察しながらワークシートに記入 <p>○まとめ（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室に集合し分布状況の確認 	<p>■各学級の4人1組の班を活用し、野草図鑑、ルーペ、白地図のワークシートをそれぞれ配布し、「最低5種類の野草を見つけてマップ上にチェックすること」「カンサイタンポポ・セイヨウタンポポの分布状況をマップに記録すること」を課題として、35分間敷地内で班活動を行う。</p>
3	<p>○タンポポとタンポポ以外の野草の分布状況について交流する。</p>	



《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》
野草図鑑、白地図のワークシート

《成果》

- ・本単元の学習に入る前に、四條畷中学校の敷地内はめずらしいカンサイタンポポの群生地であることを伝えると、子どもたちは興味を示し、敷地内に限らず自宅周辺のタンポポ調査を自主的に行い報告してくれるなど、「身近な自然への関心を高める」という学習のねらいを達成するのにふさわしい導入となった。
- ・5年前の同時期に行った同様のタンポポの植生調査のデータとの経年比較を行った結果、中学校敷地内では新たに体育館裏にもカンサイタンポポの分布が広がっていることがわかった。全国的に日本原産のタンポポが絶滅の危機に瀕しつつある中で、この結果は非常に興味深いものとなった。